

ちばの地域福祉

生活困窮者の支援に地域の力を集めよう

中核地域生活支援センターがじゅまる 朝比奈ミカ

生活保護受給者の増加、とりわけ稼働年齢層の増加が問題となっています。また、非正規雇用や低所得世帯の増加など、生活保護に至るリスクの高い層も増加しています。さらには、いわゆる「貧困の連鎖」という問題もあらわれています。

こうしたなか、社会保障制度審議会に設置された「生活困窮者の生活支援に関する特別部会」が今年1月に報告をとりまとめ、新たな生活困窮者支援制度の創設を求めました。

そこで示されている新たな制度の概要は、下記のとおりです。

【基本的考え方】

- ・生活保護に至る前の段階から早期に支援を行うとともに、必要に応じて生活保護受給者も活用することにより、困窮状態からの脱却を図る。
- ・地方自治体が実施主体となり、民間と協働して取り組む。

【具体的な仕組み】

- ①生活困窮者の自立を包括的・継続的に支える新たな相談支援体制の構築
- ②就労に向けた生活訓練、社会訓練、技能訓練等を有期で行う事業
- ③支援付きで軽易な作業等の機会を提供する「中間的就労」の場の育成支援
- ④ハローワークと自治体が一体となった就労支援体制の整備
- ⑤家計収支等に関するきめ細かな相談支援の強化
- ⑥離職等により住居を喪失した生活困窮者に対する家賃補助の給付金の制度化（有期）
- ⑦子ども・若者の貧困の防止
（若者サポートステーションの強化、貧困家庭の子どもに対する学習支援の事業等）

これを受け、平成25年度の国予算には、政令市・中核市・市町村を実施主体とした「生活困窮者自立促進支援モデル事業」が盛り込まれています。これは、早ければ平成27年度からの本格実施が準備されている新たな制度に向けて、地域における支援体制を計画的に整備するとともに、そこから得られる課題を制度設計に反映させていくことを目的とするものです。

生活困窮の背景には、暴力や孤立など地域社会のさまざまな問題が存在しています。生活困窮者の支援には、これらの問題に総合的に取り組むことが必要であり、分野や立場を超えて地域の関係者が力を合わせる必要があります。中核地域生活支援センターは、対象や課題を限定せず一人ひとりのニーズに向き合い、手探りで実践を積み上げてきました。生活困窮という幅広い課題への取り組みには、中核センターのノウハウやネットワークが生かされる必要があると思われます。

新たな法制度の成立は秋の臨時国会を待つこととなりましたが、生活困窮への取り組みは地域の喫緊の課題です。中核センターは、市町村や民間の関係機関とともに生活困窮者への支援に力を尽くしていきたいと考えています。

わたしのまちの地域福祉

「地域のつながり」

長生村健康推進課 池 礼子

1. 保健師へつなぐ

「保健師」と聞いて、どんな仕事や姿が思い浮かぶでしょうか。保健師の活動範囲は、多岐にわたる分野で活動しており一言では言えない程いろいろな活動をしています。行政の中でも、分散配置となり保健衛生のみならず、子育て支援 福祉 介護保険 地域包括支援センター 国保 教育など業務の多様化に伴いそれぞれの場所で活躍しています。

保健師は、どんな分野でも関わっている人の健康、家族 生活 生育状況など必要な情報を整理し、誰に相談し何を優先して行動するか総合的に判断し方向性を決めていける職種だと思います。そこには、「保健師魂」があり「何とかしなければ」という熱い思いと、使命感を持つことが大切と感じています。

保健師は、住民の身近なところで活動し個々の課題をみんなの問題として考え、解決すべく施策化していける職種でもあります。地域の中で関係機関の情報の共有化を図り住民の問題解決につないでいく大きな役割を担っています。

ぜひ、関係部署の保健師に相談してください。

2. 中核地域生活支援センターへつなぐ

地域の問題解決や、住民の方を長く支えていくには行政サービスや保健師だけでは困難ことがあります。また、それぞれが「何をやるのか」「どんな役割を果たせるか」を理解していなければ有効なつながりができません。

中核地域生活支援センターができ、福祉制度の狭間で問題を抱えている方への支援などを早急に相談できる機関が増え本当に心強く思っています。支援センターの活動は、行政や民間とはまた違った役割を持っており今後も地域をつなぐ大切な場として活躍することを期待しています。



* 「保健師のベストプラクティスの明確化とその推進方策に関する検討会報告書」から

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

株式会社 MARS 多機能型事業所マーレ 施設長 中田健士氏

◆多機能型事業所マーレの基本情報◆

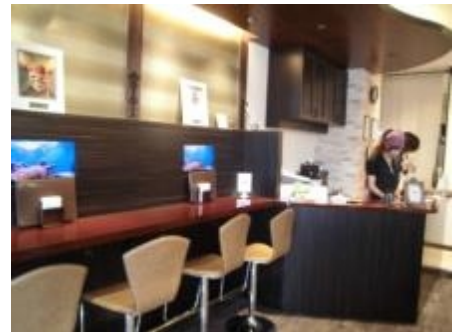
マーレは、2012年6月に開所した自立訓練（生活訓練）と就労移行支援のふたつの支援機能を持つ多機能型事業所です。

【自立訓練】8：30～17：30（活動日：月、水、木、金、日）

主な支援内容：対人関係、金銭管理、服薬管理、余暇活動、
交通機関の利用などの支援や訓練
（自宅に訪問での支援・訓練も行います）

【就労移行支援】8：30～21：30（活動日：月、水、木、金、日）

主な支援内容：オリゾンテ（カフェ&バー）での疑似就労、
事務作業訓練（パソコン・ファイリング）、
就労に関するワークショップ



◆マーレの支援について◆

「マーレの方針として、初めの利用相談の時から積極的に訪問することを決めていますので、マーレに来れないという方でも、自宅に訪問したり、本人が会いやすいところに行って相談を受けることもしています。また、ピアスタッフによる訪問もマーレの特徴です。ピアスタッフが訪問する事で、専門家とは違う対応や話ができ、違った変化が生まれると思います。」

◆主体性=したい性◆

「主体性=したい性（個人の“したい”という気持ち）を尊重して自発的な訓練を行ってもらうことがマーレの基本理念です。日々のプログラムも、基本の大枠以外は利用者の方に決めてもらっていますし、職員も利用者の方も、誰しもやりたいことがあればやっていたいというスタンスでプログラム作りをしています。」

◆中田氏の願い◆

最後に中田さんに、マーレを利用することで利用者の方にどうなってほしいか、夢・願いについて伺いました。

「ひとりひとり考えも違うし、幸せのラインも違うと思います。マーレでできるのは、あくまで成長のお手伝いなので、どこまで成長できれば幸せなのか一緒に考えるところからはじめて、そのラインが見えてきたらそこまでお手伝いするという形で活動しています。簡単に言うと、マーレの利用者の方には幸せになってほしいですね。」



問い合わせ先

株式会社 MARS 多機能型事業所マーレ

所在地 流山前平井 121-2 セントラルマークス 2-1

TEL 04-7157-8600

FAX 04-7157-8601

URL <http://mars-spaceweat.jp/>



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

「中核地域生活支援センター大会 in2013」

地域社会の貧困化

～生活困窮に対する支援の課題とこれから～

【内 容】 地域社会全体が貧困傾向にある中で、生活困窮や社会的孤立を生み出す要因とは何かを理解したうえで、今私たちは何を課題として捉え、どう活動すべきなのかを考えていきます。

【プログラム】

≪基調講演・対談≫

基調講演：村木厚子さん（厚生労働省 社会・援護局長）

対談者：野沢和弘さん（毎日新聞社 論説委員）

≪シンポジウム≫

社会福祉法人生活クラブ風の村 理事長 池田徹さん

NPO 法人井戸端介護 代表 伊藤英樹さん

佐倉市社会福祉協議会 主任支援専門員 鯉淵百合子さん

中核地域生活支援センターがじゅまる 所長 朝比奈ミカさん

【日 時】 平成 25 年 7 月 20 日（土）10：00～16：00

【会 場】 千葉市蘇我勤労市民プラザ 多目的ホール
（〒260-0834 千葉県千葉市中央区今井1丁目14-43）
JR 蘇我駅西口 徒歩5分（線路沿い）

【定 員】 390名（先着順）

【参加費】 参加費 500円

【申込締切】 平成 25 年 7 月 10 日（水）までに、所属・お名前・ご連絡先・必要な障害対応（車いすスペース・手話通訳・要約筆記・録音資料【DAISY】）を記入し、下記問合せ先まで FAX または E-mail にてお申し込みください。

【申込問合せ】 中核地域生活支援センター さんぶエリアネット
TEL：0475-53-5208 Fax：0475-80-2808
E-mail：sanbuarea@wanahome.or.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：さんぶエリアネット（山武圏域）山武市成東 189-3 TEL:0475-53-5208 FAX:0475-80-2808

編集：いちほら福祉ネット（市原圏域）市原市東国分寺台3-10-15 TEL:0436-23-5300 FAX:0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちほら福祉ネット（担当：高地）までお願いします。